

はねっと 7

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



一歩踏み出す気持ち芽生える「ワクワクビト」

畳の良さと技術、伝え続ける

せんだいりゅう たたみ そうやまかい
仙臺流 畳 草山会 **小西 康博**さん(39)

大勢の人でにぎわう街中のマルシェで、手縫いによる畳製作の実演を披露するのは、仙台市泉区の小西畳工店2代目の小西さんです。実演を始めると、道行く高齢者からは「懐かしい」、子どもたちからは「何してるの?」と声を掛けられます。「昔は、畳替えの時に、お客さんの家の庭先に畳屋さんが来て、手縫いする姿を見るのも当たり前だったようです」と目を細めます。小西さんが、特に力を入れているのが、畳の中身に宮城県産の稲わらを使った「本畳」の製作です。「本畳は、吸湿性や弾力性、難燃性に優れ、メンテナンスを繰り返しながら、長く使えるところが魅力」と話します。機械化が進む中で、部屋のサイズに合わせて細やかな調節ができる手縫いの畳にこだわっています。

現在、畳はインテリアとして海外からの注目が集まる一方で、日本では、フローリングが主流になっています。そこで、小西さんは、2015年、宮城と山形の若手畳職人の仲間3人と共に、本畳を残すため、「仙臺流 畳 草山会」を立ち上げ、畳文化の発信活動に取り組んでいます。企業が主催する地域のイベントや市民センターの催しで、来場者が畳製作の様子を見たり、実際に座ったりできるブースを出展して、畳の良さを伝えています。公園を会場にしたイベントでは、襖や障子を扱う表具師や庭師、刺繍師とコラボレーションして、小上がり四畳半間を設営し、日本酒試飲コーナーの設置や、活け花展示を行ったことも。公園に現れた畳の部屋を不思議に思っ、若者を中心に多くの人を訪れました。「少しずつだけど、畳に興味を持つ人が増えてきたことが嬉



しい」と手ごたえを感じています。

「需要が少なくなれば職人も減り、将来、畳が手に入りにくい時代が来るかもしれない」と小西さん。新たなデザインを提案したり、職業訓練校で後進を育てたりした経験を活かし、今後も畳のある暮らしを未来へ繋げていきます。

仙臺流 畳 草山会

若手畳職人らが、本畳の良さを伝えようと結成したグループです。小西さんは、高校卒業と同時に家業を継ぎ、初めは手の痛みや肉体労働を伴う職人の世界に苦勞することもありました。小西さんにとって、草山会の仲間は、お互いに悩みを相談でき、技術を磨き合える存在です。



▲Facebook



市民活動団体を紹介「市民活動突撃レポート！」

スポーツの楽しさを共有することから広がる相互理解

「ナイスボール!」「行け行け!回れ〜」。グラウンドに声を響かせ練習するのは、2015年から仙台を拠点に活動する車椅子ソフトボールチーム「宮城ファイティング・スピリッツ」です。障がい者・健常者合わせて13人のメンバーで、大会出場の他、体験会などを開き、普及にも取り組んでいます。監督の遠藤貴紀さんは、「パラスポーツは障がいのある人のためのものと思われがちですが、年齢、性別、障がいや競技経験の有無に関係なく、多くの人が参加できる新たなスポーツです」と話します。

車椅子ソフトボールは、障がいの有無に関わらず選手全員が競技用の車椅子に乗ります。基本的なルールは一般的なソフトボールと同じですが、選手たちを障がいの程度や性別に応じて4つに分ける「クラス分け制度」が特徴です。クラスごと、障がいや重い人の0点から、軽度・健常者の3点まで持ち点があり、チーム10人で21点以内になるように組む必要があります。制度によって、各地域の競技人口、健常・障がい選手の割合に合わせたチーム構成が可能になり、多様な人が参加しながら、勝敗に障がいや直接的に影響しない状況をつくっています。体験練習に参加した大学生たちは「めっちゃ楽しかった。車椅子に乗って動くと、普段は味わえない感覚を体験できる」と声を弾ませます。障がいに応じたバットの重さやフォームも工夫のしどころ。事故に遭い、車椅子に乗るメンバーの渡邊秀和さんは、野球経験がありチームに参加。脊柱の後遺障害により体幹の支持

機能がなく、腰の回旋動作ができませんが、片腕だけで打つ方法を試行錯誤。「いちから探求していくのが面白い」と話します。遠藤さんは「互いに教え合い、切磋琢磨しながら皆で楽しんでいます。興味のある方は、ぜひ練習にいらしてください」と呼び掛けています。



▲月2回程度、市内で練習中。



▲競技用の車椅子など、貸出用の道具はそろっています。

宮城ファイティング・スピリッツ



▲メンバー、スポンサー募集中。
練習参加希望は事前連絡を。

一般社団法人
日本車椅子ソフトボール協会



▲車椅子ソフトボールの発祥や
ルールなど、詳しい情報は
こちらから。



活動の幅を広げるお役立ち情報「活動に+（プラス）」

社会課題解決の促進に「頼もしい味方」を

「団体の活動を広めたいけど広報の知識や経験がない」「新しい事業を考えると、外部の視点を取り入れたい」など、問題解決の新たな味方にプロボノを活用しませんか。プロボノとは、自身の経験や知識を活かして、ボランティア活動や副業として社会貢献活動に携わることです。「せんだい・みやぎソーシャルハブ」は、仙台・宮城の団体が取り組む社会課題解決のために、プロボノのコーディネート、その後の伴走支援をしています。



せんだい・みやぎ
ソーシャルハブ



▲プロボノ受け入れについての詳細・申込

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 7月10日（水）、24日（水）

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日（祝日の場合は翌日木曜日）年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター

(指定管理者：特定非営利活動法人

せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2024年7月1日

デザイン PEACE Inc.

[X(エックス)]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる

